



号砲

ベルリンの世界選手権を兼ねた2009大阪国際女子マラソンが1月25日、大阪・長居陸上競技場で開催。号砲とともに大会史上最多となる国内外招待選手を含めた計403人が、気温6.7度と冷え込む中、トラックを力強く踏み出した。



Play Back 2009

序盤

最初の5キロは17分25秒とスローペースで推移した。そんな先頭集団を引っ張ったのは、ベテランのシモンだった。(写真1)シモン、渋井、初マラソンとなる赤羽ら13人が先頭集団を形成。大阪城に差し掛かっても、各選手は一步も譲らない。(写真2)25キロ手前で、赤羽が仕掛け、同じく初マラソンの脇田が脱落。だが、渋井らも追走し、赤羽もすぐに集団に吸収された。



満を持してのスパート、そして復活のV

レースの舵を大きく切ったのは、やはりV最右翼といわれた渋井だった。アップダウンが最大となる難所の大阪城を抜けた29キロ付近で一気にスパート。(写真3)07年大会優勝の原、大平が振り落とされ、渋井と赤羽の一騎打ちとなった。だが、31キロ付近で、渋井が再加速。32キロ付近で独走態勢を築くと、そのまま一人旅となった。(写真4)マラソンの優勝は、04年のベルリン以来。ここ大阪でのVは、01年の初マラソン以来となった。笑顔の中で、ときおり目頭を押さえ、8年ぶりに浪速の女王に返り咲いた。(写真5)



新星も…

『敗れて強し』だったのが、初マラソンで2位に食い込んだ赤羽。(写真6)最強のママさんランナーの看板に偽りはなかった。故障を乗り越え、戦線復帰した07年の覇者の原は、死力を尽くして、3位に入賞した。(写真7)